

松戸市まち・ひと・しごと創生懇談会（第 11 回）開催概要

日 時	令和 2 年 10 月 30 日（金） 14：00～16：00
場 所	松戸市役所 新館 7 階 大会議室
出席者	秋田典子、伊東朱美、影山貴大、富永尚次、中村旬治、宮岸和也（敬称略）
事務局	松戸市総合政策部政策推進課市政総合研究室

1 「開会」

- 出席者からひとこと
- 事務局の紹介

2 「懇談」

（1）地方創生交付金事業の検証について

- （1）について事務局から説明
 - ・ 地方創生に関する国の交付金制度の推移（資料 1）
 - ・ 地方創生推進交付金 充当事業の令和元年度実績調書（資料 2）
- 検証結果（出席者の評価及び意見）

令和元年度実績調書 No.1 （地方創生推進交付金充当事業）	
事業名称	コンテンツ産業振興事業
評 価	「総合戦略の KPI 達成に有効であった」 「総合戦略の KPI 達成に有効であったとは言えない」 双方の意見あり
付帯意見	<ul style="list-style-type: none">・ 総合戦略 KPI の達成には有効であったと思う。ただ、KPI「協議会に対するコンテンツ産業に本業で携わる従業員の認知度」をはじめ、KPI の実績値はあまり芳しくない。認知度向上といった基本的な事業を着実に継続していかないと、実績につなげるのが難しいと感じる。・ KPI「協議会加盟事業者の粗利益」は実績が目標の 2 倍に達しているが、他の KPI は未達成。ただ、そもそも KPI 設定が妥当なものであったのかという考え方もあると思う。例えば、コンテンツ事業者は、そもそも目標値程度の母数が存在するのかといったように。令和 2 年度からは自主財源で事業を行うことから、KPI は少し見直してもいいのではないかと。

- KPI の実績だけを見ると、厳しい結果だったという見方もあると思うが、一定の水準には達していて問題は無いという認識。取組み自体は悪くはないと感じるので、有効性はあったのではないか。特に、人材育成の一環として実施している、小学生向けプログラミング教室については、良い取組みだと思う。
- 子ども達はゲームであれば喜び、それをきっかけにプログラミングを学ぶことで、その先に様々な可能性が広がっていくのではないかと思う。
- 今年度から、松戸市コンテンツ事業者連絡協議会（以下、協議会）が YouTube チャンネルを開設したとのことだが、私自身は知らず、たぶん知らない方が多いのではないか。今は“巣ごもり需要”により、コンテンツ系はすごく勢いが出てきていると思う。これから DX（デジタルトランスフォーメーション）にも絡んでくる産業だと思う。もう少し市内の人への周知に工夫があってもいいのではないか。
- 周知にあたっては、「こういうことをしている」ということがもっと伝わるようにすれば、もう少し興味を持ってもらえるのではないか。
- KPI の達成状況をふまえ、この事業が有効であったとすることは厳しいという認識。私の所属組織でもデジタル化を進めているが、私のような世代には考えつかないようなことも、若い世代が色々なアイデアを出してくれている。例えば、大学生や高校生といった若者に意見を聞く場もあれば、また違う方向で出来ることもあるのかもしれないという気も若干する。
- 松戸の松戸らしさというものを考えてみると、コンテンツは外せない分野だと思うので、もっと力強く戦略的に政策をけん引した方がよいと思っている。コンテンツのことに留まらず、分野を横断して戦略を描ける専門家のような人は、松戸にもきっといると思うので、そうした人物とともに次にどう進むかを検討するのが最も重要なことではないだろうか。
- 協議会に 46 も事業者がいるのであれば、「我々はこのことが出来ますよ」というチラシを作って配る等の方が良いのではないか。

令和元年度実績調書 No.2 (地方創生推進交付金充当事業)	
事業名称	インキュベーション・コワーキング施設整備運営事業
評価	総合戦略の KPI 達成に有効であった
付帯意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ (施設運営開始が平成 31 年 4 月と) 始まって間もないという点を考慮しても、KPI は概ね達成してきている。KPI「本事業に関連して増加した市内就労者数」は、KPI の達成は難しいと思うが、引き続き頑張っていただけだと思う。コンテンツ事業とインキュベーション施設は親和性も高いと思うので、うまく連携していければ良いと思う。 ・ 現在の普及度合いをふまえ、オンラインを上手く活用することで、市外の人にも松戸に来て仕事をしてもらえる可能性が高まってくるのではないかな。 ・ コロナ禍のなかで、KPI の実績値がこうした数値として出ているということは、立派なことだと考えている。 ・ 本事業は、コロナによって、逆に需要が高まる可能性があるのではないかな。そうした可能性を感じられるし、KPI をみてもそれなりに達成していることから、本事業の有効性を感じる。 ・ 本事業のような場があることはすごく大事なことだと思う。ただ、最近、こうした施設がかなり多く出てきており、イノベーション系施設は松戸ではなく、つくばや柏に出来ている。だからこそ、松戸はコンテンツで主張していくという考え方もあると思うが。そうしたイノベーション系施設はどのようにしていくのか。戦略をきちんと練っていただき、何らかの事業を実施していく必要があると思う。

(2) 次期「松戸市総合計画」について

ア 地方創生をめぐる国・県の動向について

イ 次期「松戸市総合計画」(総合戦略と一体)について

○ (2) ア及びイについて事務局から説明

○ 出席者の意見等

- ・ 国がまち・ひと・しごと創生で行っている施策のなかで、東京圏への一極集中是正は、松戸市も東京圏に含まれるので、(どのように取り組めばよいか) いつも難しいと感じる。地方から出てきて松戸市内に住む大学生が、卒業後もそのまま松戸に住み続けている人が多い。松戸には色々なものがそれなりにあるので、わざわざ他の自治体に行かず、卒業後も結婚・出産・子育てとシームレスにつながっている。働く場所の自由度はますます高まってくると思うので、暮らす場所としてどうやって質を高めていくかということが一番大事になるのかなと思う。
- ・ シティープロモーションやPRも大事だとは思いますが、最終的に重要なのは、暮らし心地・住み心地、そうしたものの価値だと思う。松戸で住みやすく、幸せに暮らしていただけるかということに、こだわっていかなければならないと思っている。
- ・ 松戸は住みやすい都市だと思う。キーワードとして、快適な住環境というのは、ぜひ次期松戸市総合計画に入れていただき、進めてもらえればいいかなと思う。また、商業で柏と張り合っ勝負ととするより、今あるポテンシャルを高めていく方が良い。子どもからお年寄りまで住みやすい松戸市、というイメージで計画を作ったらいいと思う。
- ・ 暮らしやすさを向上させるという観点で、自分たちが暮らしやすくするための小さなコミュニティビジネスがあれば、松戸ならではの動きとなるのではないかな。
- ・ 課題には、顕在的なものと、潜在的でまだ埋もれているものがあると思うが、顕在的な課題については、普通に暮らしている市民の方の声を聴くということは大事だと思う。ただ、あまりにも社会情勢の変化が激しいので、目に見える課題だけではなく、1.5歩程度先を見据えた計画を打っていかないと、どんどん時代の変化に追いつけなくなってしまうと思う。
- ・ 出来ればオンラインも活用して、市内だけではなく、市外でも色々な分野で活躍されている方の知恵を、うまく総合計画に取り入れていくチャンスだと思う。知恵を持つ方は市内にいても限らないと思うので、外部から知恵を得るといった視点を大事にしてもいいのではないかな。
- ・ 市外の方にも、松戸市の取り組みに関われる工夫をしていただきたい。門戸が開かれれば、松戸への関心は高まり愛着も湧くと思う。いずれにしても、今後は日本全国で人口は必ず減少し、コロナ禍でデジタル化が

進展すれば、地方への人の流れは加速すると思う。そうならば、人口を囲い込むことだけに集中するのではなく、今いる人たちの暮らしの質を高めつつも、出来るだけまちに市外からでも関わってもらい、関心を持ってもらう、という視点を持っていただければと思う。長い目で見たとときに、いずれは松戸に住んでみたいと思ってくれるような人の存在が大事になってくると思う。

- 松戸市は、大学は4つもあり、大企業もあることから、転出入が激しいまちである。約50万人という人口が、毎年出入りを繰り返していることから、関係人口は豊富にいと考えている。関係人口は、これから重視していくべき観点だと思ふ。
- 関係人口については、直接そのまちなに行かずとも、何らかの“関わりしろ”があると、非常にいいと思う。一番よくあるのが、地域産品の購入で支えること。ところが、松戸は「何を買ってもらおうか」というと、それが有るようで無い。関係人口とのつながりをつくる“つながりしろ”を具体的に考える必要があると思ふ。
- 松戸の事業者を見ていると、とりあえず松戸で起業し、うまくいったら東京にいこうという考え方の事業者が多いと感じる。
- 松戸は物流系企業に注目されていると感じる。不動産業者にも相当声がかかっているようである。外環のことも含め、それだけ利便性が評価されているということだと思ふ。
- 外国人が増えてきており、外国人の方への対応に苦慮している人が出てきていると思ふ。北千葉道路の整備等は、松戸の武器になる部分であると思ふので、国際対応・外国人対応というのは、ぜひ次期計画にいらてほしいと思ふ。
- ふるさと産品については、まさしくコンテンツ事業の出番ではないかと思っている。うまく掛け合わせが出来れば、いいコンテンツになると思ふ。外国人向けの周知も、コンテンツの力が使えればいいと思ふ。コンテンツ事業は活躍の場がたくさんあると思ふ。ぜひ次期計画にも活かして行ってほしい。
- 松戸市のなかで残念と感じるのは、大規模団地のリニューアルに関して。船橋市内では前原団地と高根台団地のリニューアルがあり、人口も増えた。団地をリニューアルするか、戸建て住宅の大規模分譲や、マンションを建設するとか、何かやれないのかなと、いつももやもやする。
- 松戸市は人口規模と市の権限がアンマッチという印象。柏市も中核市になっているなか、柏よりも人口が多い松戸市が中核市ではないのはなぜかと思ふ。

3 「事務局からの報告」

○ 事務局から説明

- ・ 懇談会での意見等は、庁内関係部署にフィードバックする。
- ・ 懇談会の資料及び懇談概要を松戸市のホームページに掲載する。

4 「閉会」

以上